

演習訓練
事例
1

河川敷で川を水利として放水訓練を行っていた際、ポンプを設置した場所が傾斜地で、また冷却水等で濡れてきたため、徐々に滑り出して川に落下しそうになった。

結果 負傷者なし

▶▶▶ 対策

ポンプ担当団員はもとより、指導員は周囲の状況を確認し必ず水平になるように部署する。

河川敷への部署選定は、雑草で滑りやすいので、吸管投入、機関運用時には足元等に十分に注意する。

演習訓練
事例
2

林野火災を想定した訓練に出動し、スキー場中腹部の傾斜地から訓練開始地点に向かうため登山中に、持病（心臓病）があったことと訓練当日の健康状態が良くなかったため、呼吸困難となり意識を失った。

結果 急性心筋梗塞

▶▶▶ 対策

健康診断の受診と日々の体調管理を徹底する。

出動の際には無理をせず、体調不良があれば申し出ることを徹底する。

林野火災訓練は、現場に到着するまでに相当な体力を要するので、体調不良の場合には見学参加とする。特に、負担の大きい訓練では、持病のある団員に絶対に無理をさせない。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

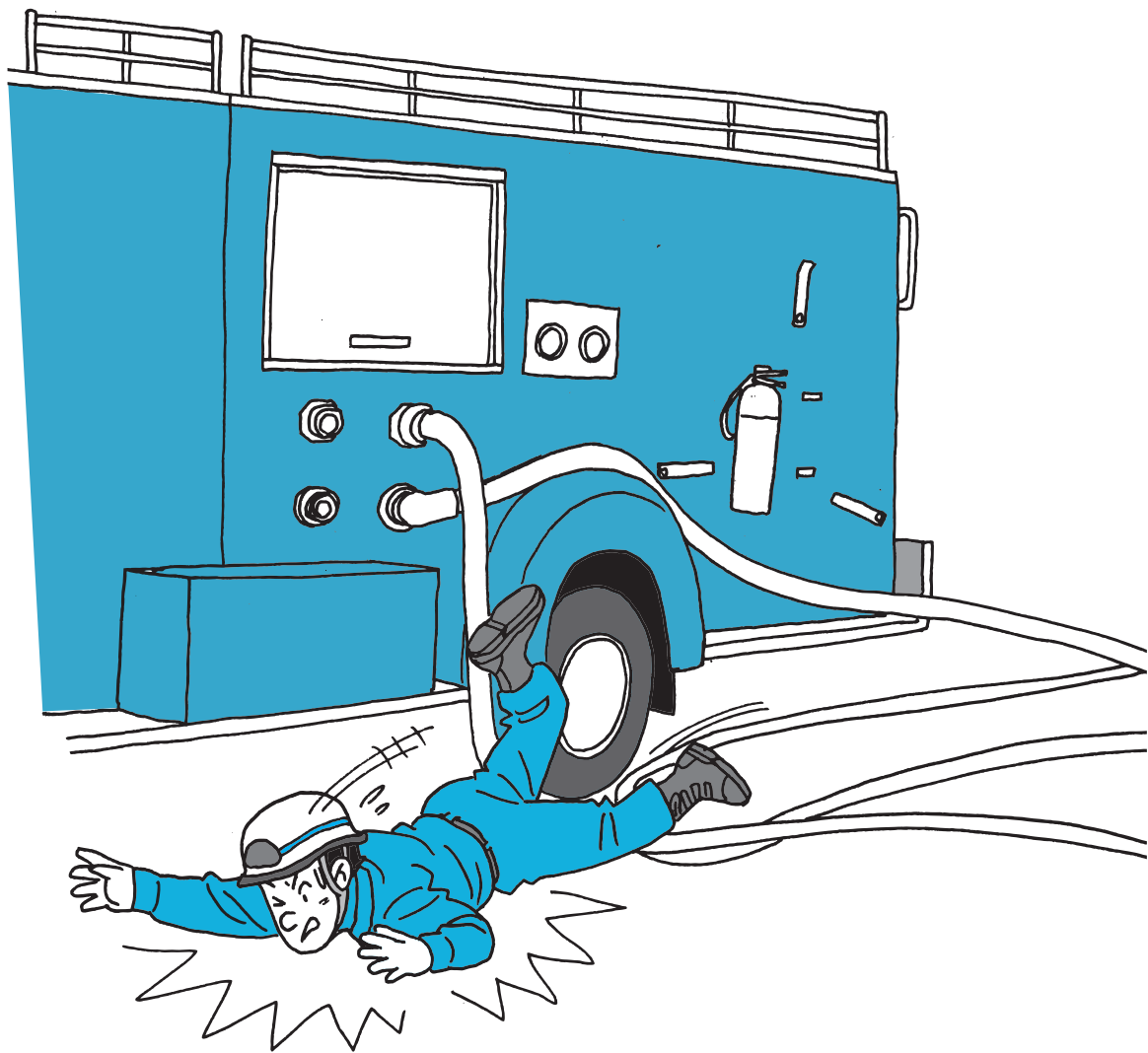
警戒・広報

往復経路

点検整備・その他

**演習訓練
事例
3**

訓練大会に向けての夜間訓練中、機関担当の掛け声でリヤカーに載せてあったホースを消防車に装着し、次の持ち場へ移動しようとした際、少しでも早く移動しようとしたこと、前方の同僚団員を気にしすぎたこと、薄暗かったことなどから、足もとの注意が散漫になり延長してあったホースが足に絡み転倒した。

**結果****左橈骨骨折****対策**

夜間訓練は視界が狭くなり活動力が低下するので、照明作業を行い、誘導員を配置する。

訓練時には、速度よりも確実性を重視する。

演習
訓練
事例
4

中継送水訓練終了後、ホースを洗浄し乾燥塔に吊り上げるため、巻き取り機でワイヤーを巻いていた際、巻き取り機のハンドル部分の固定ネジのしめつけがゆるかったため、ハンドル部分がはずれ顔面に当たった。

結果

顔面打撲

▶▶▶ 対策

ホース乾燥作業をする際は巻き取り機のハンドル固定を確認する。
機器を使用する場合には、必ず点検整備を実施する。

演習
訓練
事例
5

カーフェリー事故対策訓練に出動し、訓練場所の港湾岸壁でタンク車から放水銃及びホース2線で放水を開始した。その後、指揮者から「放水止め」の指示により放水銃筒先員がタンク車機関員がポンプ圧力を下げる前に放水銃のストップバルブを遮断したため、第1線、第2線に急激なポンプ圧力がかかり、ホースが左右に大きく暴れ、第1線の筒先員と補助員に筒先が当たった。

結果

①腹部打撲、右手関節捻挫、右手第2、3指切創 ②右下肢打撲、右足背打撲

▶▶▶ 対策

多口放水の場合（中継放水、高圧放水、二又切り替え放水等）1箇所の筒先を閉じるにより他の筒先に影響（圧力が高くなる）することを周知徹底する。
「放水止め」はストップバルブを遮断するのではなく、機関員が放水口を閉じてエンジン圧力を下げることだと理解させる。
訓練時に放水体形を全団員に周知徹底する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

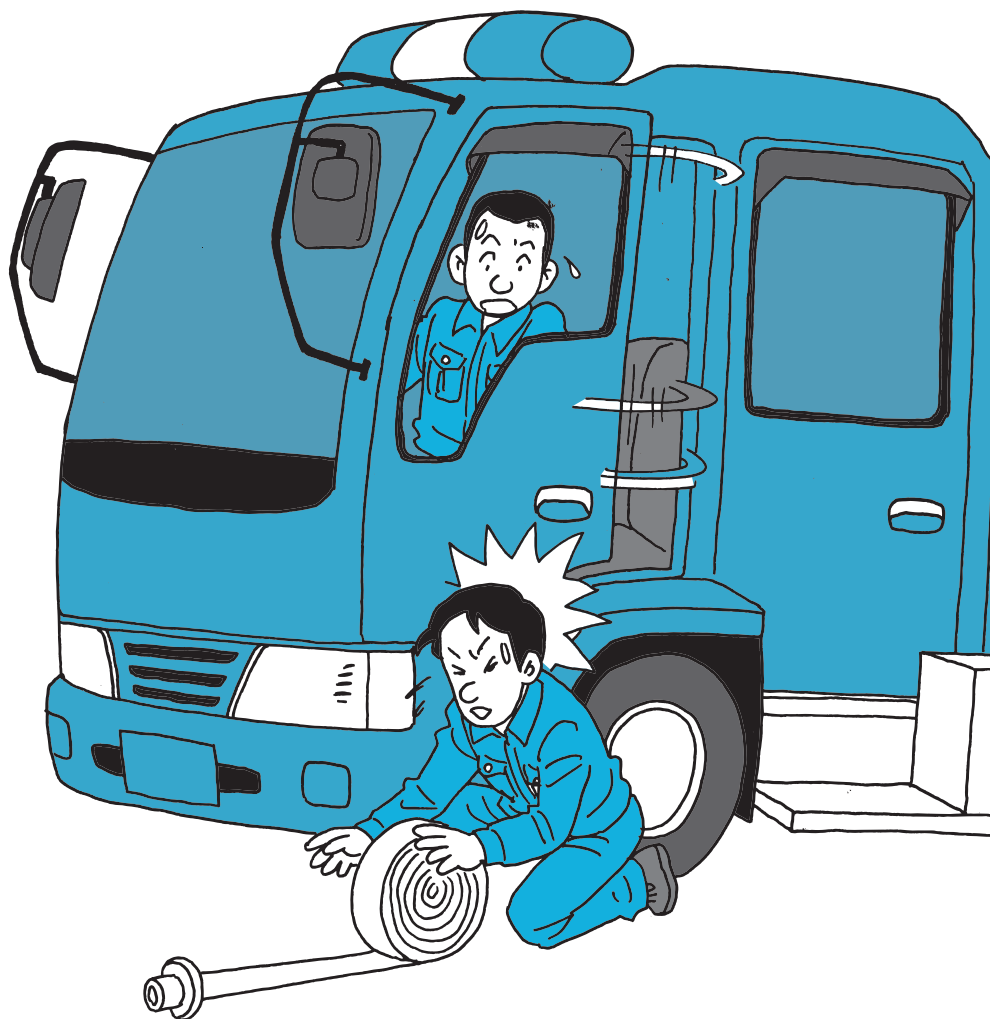
警戒・広報

往復経路

点検整備・その他

演習訓練事例6

管轄区内で行われた防災訓練終了後、分団車庫内でホースの撤収作業をしていた際、車両付近でしゃがんで作業をしていた。車両に乗っていた同僚団員がその存在に気づかず、助手席ドアを開けたため、ドアが頭部に当たった。



結果

頭部挫創、頭部打撲、
頸椎捻挫

対策

なるべく車両のドア付近では作業をしない。

車両乗降時には周囲の状況確認を徹底する。

分団車庫内等、狭い場所で作業をする場合は分団長等が作業をしている団員を監視し、お互いに声を掛けあう。

演習訓練
事例
7

防災拠点訓練のため、公道上の消火栓で簡易水槽へ補水するため、消火栓鍵を用いて消火栓の蓋を持ち上げ横に移動していた際、作業に不慣れで器具の取り扱いを誤ったため、消火栓鍵から消火栓蓋がはずれ右足先に落下した。



結果

右第1趾末節骨骨折

▶▶▶ 対策

消火栓の蓋を持ち上げるのではなく、低い位置で横にずらす（引っ張る）ようにする。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・その他

**演習訓練
事例
8**

消防団合同点検に出動し、救出救護訓練実施中、地震発生の合図により、膝を折り身の安全を図る姿勢をとった後、訓練行動を開始するため立ち上がり一歩踏み出した際、左足に痛みを感じた。

結果

左アキレス腱断裂

対策

訓練実施前には、入念な準備運動を行う。

ストレッチ体操を取り入れ、日頃、使わない筋肉等を柔軟にする。

**演習訓練
事例
9**

訓練場所の防火水槽付近でポンプ操作の見学をしていた際、見やすい場所に移動しようとしたとき、防火水槽の蓋が開いていることに気づかず、片足が防火水槽に入ってしまう、転落しそうになった。

結果

負傷なし

対策

訓練現場等の周囲の状況を周知徹底する。

標識やロープを用いて、誰にでも分かるように危険区域を設定する。
安全員を配置する。

演習訓練
事例
10

多数傷病者対応訓練中、傷病者を救護所まで搬送する訓練で、組み立て式担架を活用した3人搬送法で足元側を確保して持ち上げた際、手を滑らせ担架が右側に傾いたため、負傷者（ダミー）が落ちそうになった。



結果

負傷者なし

対策

組み立て式担架は、傷病者を乗せるシートが浅く滑りやすく、また、左右のバランスをとる事が難しいので「傷病者縛着ベルト」や「肩掛け補助バンド」の着用を習慣づける。

担架の後方保持者は足元が見にくいので、前方保持者に対して斜め歩きをするなどの方策をとる。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

搜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

**演習訓練
事例
11**

分団本部のある神社の境内で、ホース漏水確認を兼ね筒先保持要領と機関運用訓練を実施した。機関運用 1 名、筒先保持 1 名で他の 7 名は周辺に配置していた。機関運用を担当していた団員が吸水処置を行い圧力 1MPa の状態で一気に送水したため、筒先保持者が後退し体が浮いたところで筒先を保持しきれず手から放したため、筒先が右前腕部に当たった。

**結果****右上腕部脱臼骨折****対策**

筒先保持者に必ず補助者を配置する。

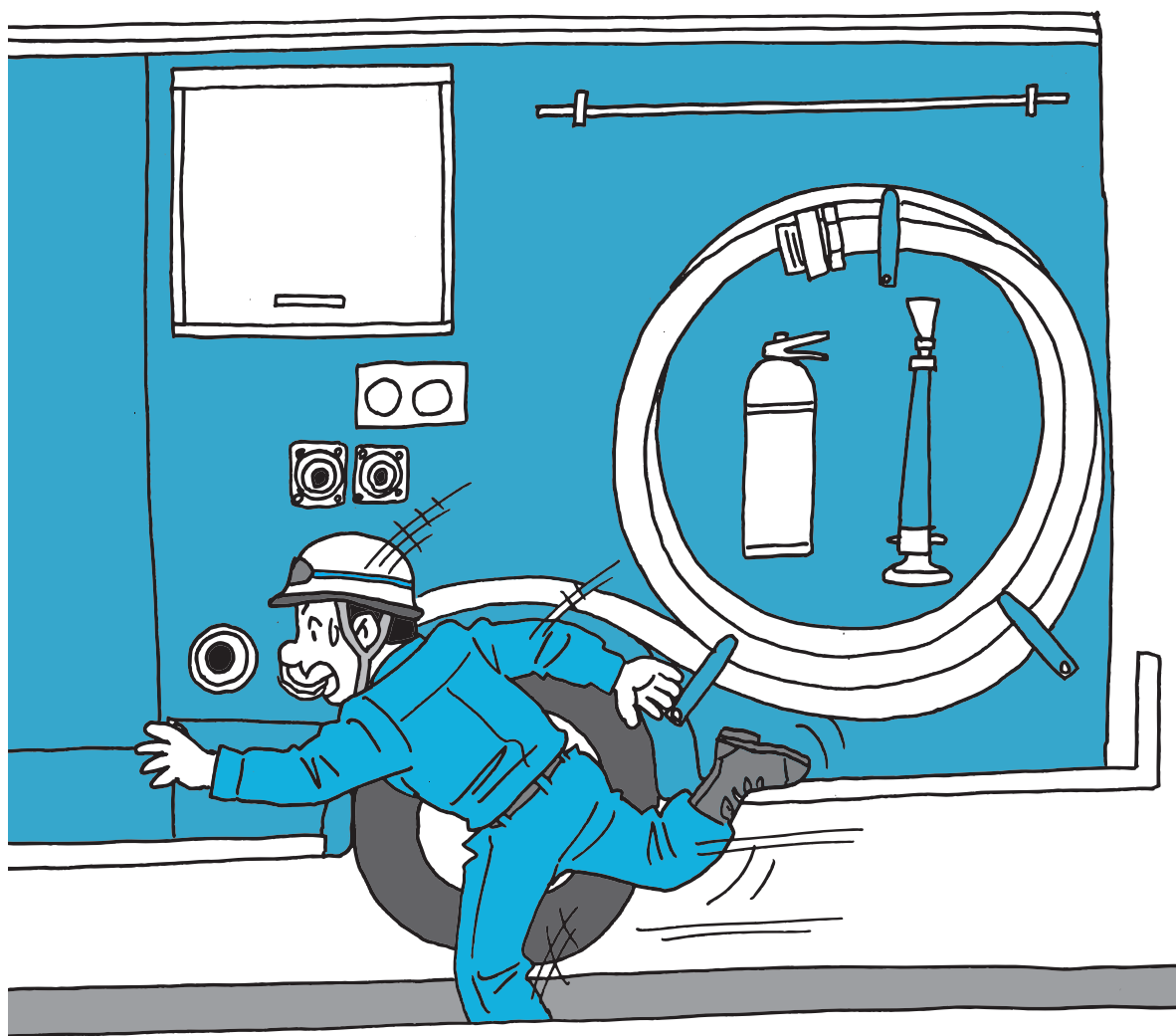
機関員に指導員を配置する。

訓練現場全体の安全を管理する要員を配置する。

ホース耐圧（漏水）試験は他の訓練と別に実施する。

演習訓練
事例
12

夜間における火災を想定した非常呼集訓練時に火点に向かうため狭い道路を走っていた際、停車していたポンプ車の側面を通り抜けようとしたとき、夜間のため周囲が確認できず道路脇の側溝に転落した。



結果

負傷なし

対策

訓練では、特に周囲の状況に注意し「迅速」よりも「確実」に重点を置く。
安全員を配置する。

夜間訓練の場合は照明を早期に設定し、携行型ライトやヘッドライト等の個人装備の充実を図る。

転落等の危険箇所については、団員相互で情報を共有する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備
その他

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・その他

演習訓練事例13

夜間に河川堤防で水防訓練の事前訓練として水防工法訓練を実施中、法面で石につまづき川原へ転落した。

結果

肋骨骨折、両手首捻挫

対策

照明器具を確保し、作業スペース全体を明るくする。

転落の危険がある箇所での作業には、安全員を配置するとともに必ず安全帯を使用する。

訓練はなるべく危険のない場所で実施する。

危険要因があることを念頭に行動する。

演習訓練事例14

河川敷にある公園で可搬式小型ポンプを使用した放水訓練を実施するため、機関員として補助者と共にポンプを水利部署位置へ搬送していた際、前日の雨で足元がぬかるんでいたため、足を滑らせバランスを崩し転倒しそうになった。

結果

負傷なし

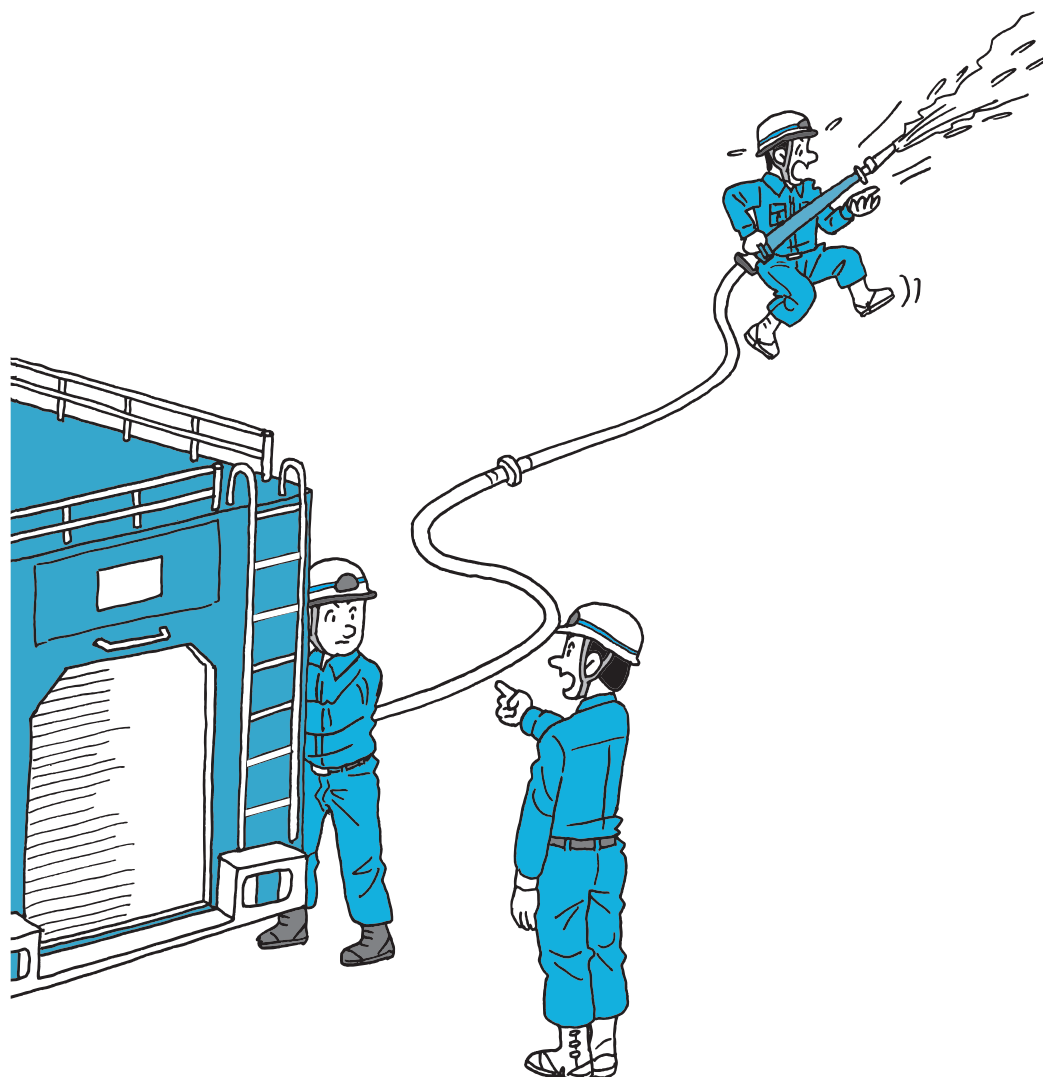
対策

重量物を運搬する際は、現場の状況を下見するなどして、特に足元の安全に注意して行動する。

安全員を配置する。

演習訓練
事例
15

消防署の訓練施設で建物火災を想定した訓練中、筒先担当員として管鎗を保持していた際、指揮者から「放水止め」の指示があったので力を抜いていたとき、指揮者が筒先担当員に伝令せず、機関員に再度「放水始め」の指示を出したため、筒先担当員が管鎗を落としそうになった。



結果

負傷なし

対策

筒先担当員や機関員等への指揮者の指示、連絡は伝令を必ず活用して徹底し、意思疎通を図る。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

搜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・その他

**演習訓練
事例
16**

河川敷のアスファルトの駐車場で「二又分岐」を使い2線本放水訓練を実施していた際、指揮者の「第2線放水止め」の指示で第2線の筒先担当員がいきなり放水を停止したために、第1線側の放水圧力が急激に上昇し、ホースの反動に負けそうになりヒヤリとした。

結果

負傷なし

対策

二又分岐を使用する時の圧力変化とそれに伴う危険性について事前に展示などの勉強会を実施する。

訓練計画は、実施者の年齢や技量に応じて無理のないように立てる。

**演習訓練
事例
17**

訓練場である公園で点検に伴う放水訓練中、機関員として可搬式ポンプから送水する際、二又分岐の送水コックの操作を誤り折り島田になっていたホースが暴れた。

結果

負傷なし

対策

機関員は、二又分岐の送水コックの開放位置を指差し呼称で確認し、確実に操作する。

不安があれば、一度ストップし、再度確認する。

演習
訓練
事例
18

用水路で放水訓練中、筒先担当員として筒先を構え放水が開始された際、「0.2 メガパスカル」と言うべきところを「2 キロ」と言い間違えたため、水圧が急激に上がり転倒した。

結果 右膝前十字靱帯損傷

▶▶▶ 対策

訓練は機関員から筒先担当員が見通せる場所で行う。

安全員を配置する。

「1 キロ、2 キロ」と言わず「0.1 メガ、0.2 メガ」と言うようにする。
水圧は、徐々に上げる。

演習
訓練
事例
19

防災訓練中、コンクリートブロックを破壊するためストライカーを搬送していた際、ストライカーのコレットリングがゆるんでいたため、ハンドルラムが不意に滑り出し足にぶつかりそうになった。

結果 負傷なし

▶▶▶ 対策

訓練実施前にも使用資器材の点検を徹底する。

点検が形式的にならないよう「指差し呼称」で確認する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・
その他

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・その他

**演習訓練
事例
20**

消防庁舎前で資器材結索訓練中、ホースを繋いだ筒先を引き上げた際、筒先とホースの結合が不十分であったため、ホースがはずれホースの媒介金具が頭に落下した。

**結果**

負傷なし（ヘルメット装着のため）

対策

基本を忠実に守ることを習慣づける。
「指差し呼称」で結索と結合を確認する。
使用資器材の点検、整備を徹底する。

演習訓練
事例
21

消防庁舎裏で放水訓練中、筒先補助員として 65mmホースを展長していた際、ホースが完全に結合されていなかったため、放水圧が上がった時にホースの結合部分が外れ、ホースが振られた。



結果

負傷なし

対策

基本を忠実に守ることを習慣づける。
「指差し呼称」でホースの結合を確認する。
使用資器材の点検、整備を徹底する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・
その他

演習訓練
事例
22

救助研修に参加し、チェーンソー取扱い訓練中、倒壊建物に見立てた材木を切断するためチェーンソーのエンジン始動させたが、防塵メガネを装着していないことを指摘されたためチェーンソーを持ったまま防塵メガネを取りに行こうと後ろを向いた際、チェーンソーを人に向け接触しそうになった。



結果

負傷なし

▶▶▶ 対策

エンジン始動後は移動を極力少なくする。

やむを得ず移動する場合には、指導者及び本人は、周囲の安全確認をしチェーンブレーキを必ず設定する。

演習
訓練
事例
23

山林火災を想定した機動演習訓練中、傾斜のある林道に小型動力ポンプ積載車を駐車し小型ポンプを降ろそうとした際、車両のサイドブレーキの引きが甘く車止めをしていなかったため車両が後退し始めた。

結果 負傷なし

▶▶▶ 対策

消防車両の駐車の際には、傾斜の有無にかかわらずサイドブレーキの確認と車止めの設置を徹底する。

機関員に対し、基本の重要性についての教育訓練を徹底する。

演習
訓練
事例
24

河川敷で新入団員を対象にした礼式訓練を実施した。当日は湿度が高く気温が急に上昇したため、歩行訓練中に気分が悪くなり石につまずいて転倒しそうになった者が出た。

結果 負傷なし（熱中症？）

▶▶▶ 対策

訓練開始前に体調のチェックを行い、適宜、水分補給や休憩をとりながら訓練を実施する。

訓練会場を事前にチェックし危険を排除する。

天候や訓練会場などに注意し、無理な訓練をしない。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備・